

巻 頭 言

人間福祉学部長 芝 野 松次郎

人間福祉学部・研究科の本拠、G号館は、3年目を迎えて学生数も増え、活気溢れる学びと探求の場となっています。人間福祉学部・研究科紀要である『Human Welfare』も、第3巻第1号をお届けできる運びとなり、その内容もますますエキサイティングなものとなっています。

論文は専任教員のみならず大学院博士課程後期課程の院生や人間福祉実習助手の方々からの投稿もあり6編を掲載することができました。加えて調査報告や研究ノート、資料紹介と、いずれも力作であり、研究者や院生、そして学生のみなさんにとって大変貴重な文献になるものと信じています。

各学部の教育活動としては、本年度より始まった研究演習（ゼミ）活動が注目されます。学部および各学科の教育理念および教育課程に沿いつつ、各ゼミの個性的な教育方針と研究目標を実現するために、専門領域での学びを深め、次年度の卒業研究に向けて準備が順調に進められています。

社会起業学科の文部科学省大学教育推進プログラム（GP）は、本年度、新たな実践の局面に入っています。甲東園駅近くに設置した店舗で、学生たちは実践を通して起業家としての学びを深化させています。注目していただきたいと思います。

人間福祉学部研究会も活発に活動いたしました。「“Gift of Life”を考える—臓器移植法が改正されて—」、「＜語り＞研究の最前線—日常・経験・意識をめぐる方法」をはじめとするシンポジウム、講演会が開催されました。また、人間福祉学部専任教員を中心とする研究会も8回開催され、熱心な議論が行われました。「人間福祉学部研究会」のコーナーに報告が掲載されていますのでご覧いただければと思います。

人間福祉研究科では、2009年度に6名、2010年9月に1名に対して修士学位を、2009年度に2名、2010年9月に2名に対して博士学位を授与しました。その中の1名は本研究科では第1号となる乙号すなわち論文博士です。今後もより多くの優れた研究者に質の高い博士学位を授与できるように研究科の研究および教育の質を高める努力をしていきたいと思っています。

3年目を迎えた人間福祉学部は次年度最初の卒業生を世に送り出し、完成年度を迎えます。人間福祉研究科は本年度博士課程後期課程が完成年度を迎えました。これからが本当の意味での学部および研究科の意義が問われることになると思っています。よりよい成果を『Human Welfare』の中でしっかりと報告し続けていきたいと思っています。